

吹田市勤労者福祉共済運営委員会（会議録）

- 1 日 時 平成29年11月20日（月） 午前10時00分～午前11時00分
- 2 場 所 吹田市役所 高層棟4階 特別会議室
- 3 出席者 安部委員・安藤委員・井上委員・植田委員・岸原委員・土橋委員
平井委員・松尾委員・松下委員・矢野委員・山口委員・熱田委員
- 欠席者 なし
- 事務局 中川室長・奥山総括参事・光岡参事・大音主幹・廣澤主任
- 4 公開・非公開の別 公開
- 5 傍聴者 0名
- 6 議題 (1) 平成29年度補正予算案について
(2) 平成30年度予算案について
(3) その他

【 平成29年度補正予算案について事務局より説明 】

会 長 : 事務局からの説明についてご質問、ご意見があればお願いします。よろしいですか。なければ、次に進みたいと思います。平成30年度予算案といたしまして、事務局から説明をお願いいたします。

【 平成30年度予算案・前回運営委員会における福利事業に対するご意見について事務局より説明 】

会 長 : 事務局からの説明についてご質問、ご意見があればお願いします。

委 員 : 平成30年度予算案の中で、収支が足りないということで基金を取り崩す予算になっていますが、平成28年度では繰越金があったのですか。

事 務 局 : 平成28年度は黒字でしたので、繰越金がありました。

委 員 : 基金からの繰入金はなかったということですか。

事 務 局 : 平成28年度の予算を作成した時点では、基金からの繰入金を計上しておりますので、その金額を基金から繰り入れています。黒字であるのは、給付事業の金額が毎年変動して読み切れない部分がありますので、予想よりも執行が少なかったということが大きな理由です。

会 長 : おそらく給付事業は、過去5年間の実績の平均に5%増しで計上しているのので、その分も浮いてきているのではないかと思います。

副 会 長 : 修繕料6,000円を計上していますが、これは何と説明されていきましたか。

事 務 局 : 福祉共済で貸出し用のテントを1張所有していて、そのテントの修繕用です。

会 長 : 脳ドックの受診に対して、平成30年4月から補助対象とするとのことですが、予算の中の人間ドック補助で対応するということですか。

事 務 局 : 人間ドック補助については、毎年、予算が余っておりますので、脳ドックの受診に補助させていただいても、予算内でやりくりできると考えております。

会 長 : 脳ドックのみの受診に対しても、4,000円の補助ということですね。

事務局： おっしゃるとおりです。

委員： 生活習慣病予防検診補助について、他府県での受診でも、全国健康保険協会大阪支部を通した場合の受診は対象となるということですが、各支部ごとに担当の病院が決まっていたと思います。ということは、結局、東京の人は大阪の病院で受診しないと対象とならないということですか。

事務局： 他府県に出張所や支社がある事業所に事務局から問い合わせたところ、他府県での受診でも大阪支部を通じて受診されているとのことでした。たとえば、奈良県で働かれている方が、奈良県の病院で生活習慣病予防検診を受けられる場合、その病院は奈良支部の指定病院かも知れませんが、大阪支部を通じて受診されているとのことでした。したがって、他府県で受診された場合でも、平成30年4月以降は補助対象にできると考えております。

会長： それは、例外なくどの事業所も対象ですか。

事務局： 全国健康保険協会大阪支部の健康保険に加入されている事業所で、他府県に出張所等があるところは少ないので、事務局で確認させていただいたところ、皆様、対象となります。

会長： 平成30年度予算の福利事業一覧の中に、エキスポシティにある施設のチケット等は入っていませんが、実施しないということですか。

事務局： 項目としては挙げていませんが、企画事業という項目がありますので、その中で実施する予定です。

会長： それでは、この企画事業は予備と言うか、その時にニーズのあるものを実施するためにあるわけですね。

事務局： そのとおりです。

委員： システム事業について、もう一度、説明していただいてよろしいですか。

事務局： 皆様のご住所、ご家族の状況等の個人情報や、就職された年月日、福祉共済への入退会等をシステムで管理しています。平成27年度まではパソコン本体とプリンタは購入して、市役所の備品として運用していました。システムは5年ごとに入れ替えているのですが、平成28年度に入れ替えた際に、パソコン等を購入した場合、一気に何百万円といった負担が発生することになりました。負担の平準化という意

味でレンタルに切り替えさせていただいています。パソコンとプリンタだけでなく、システム自体もレンタルという形で使用していて、何かあった時の保守も含めて、ひと月税抜76,000円でお借りしていて、この金額をシステム事業として挙げさせていただいています。

委員：ひと月76,000円ということは、5年間で450万円くらいのパソコンとプリンタを持っているというイメージになります。

事務局：システムを更新する際、システムを移行する更新料、技術料の金額が何百万円とかかりました。

委員：技術サポート料のような料金が上乗せされていて、パソコンやプリンタは安いものを使用しているということですか。

事務局：おっしゃるとおりです。

会長：個人情報管理するという意味で、システムが必要ということですね。

事務局：そのとおりです。

会長：他にご意見があればお願いします。よろしいですか。なければ、次に進みたいと思います。その他ということで事務局から説明をお願いいたします。

【 福祉共済の今後の収支・記念事業について事務局より説明 】

会長：平成31年度の45周年事業について、実施するかしらないかということですが、みなさん、いかがでしょうか。

副会長：ずっと5年おきに記念事業を実施しているので、35周年も実施したいと思います。

委員：今までやってきていて、やめる理由がないのではないですか。

会長：変える意思決定をする理由がないですね。

委員：金額はわかりませんが、何かがあってやめるというのではなく、理由もなく、突然やめるというのはおかしいと思います。

委員： 継続して実施された方がいいと思います。

会長： 実施するというご意見が多いようなので、実施するということがよろしいでしょうか。

(拍手をもって、全委員実施に賛成)

事務局： 前は、QUO カードを全員に配布させていただきました。次回の運営委員会で、具体的に決めていただくのですが、何か別のもので希望等がありますか。

副会長： 個人的には QUO カードが一番嬉しいです。500円でも嬉しいです。

委員： 私も同じ意見です。いらないものをもらっても、結局、家の隅にずっと置いておくということになりますし。

会長： 前は何か印刷をしていたんでしょうか。

事務局： QUO カード本体には印刷せずに、カードを入れる袋に40周年記念である旨を記載したシールを貼りました。

会長： その方が安いのですか。

事務局： そのとおりです。QUO カードに印刷しようとすると高額になります。印刷もせず、1,000円の QUO カードを購入するだけで1,040円かかります。

委員： では、商品券等の方が安いというか、手数料はかからないですよ。

委員： JCB とか VISA とかもありますよね。

委員： ほとんどのお店で使えますよね。封筒もつけてもらえると思います。

委員： 商品券は持ち歩きにくいだけですよ。無駄なお金はいらないですよ。

副会長： 500円の QUO カードなら手数料は余分にかからないのですか。

事務局： 確か、かからなかったと思います。

副会長： それなら、500円の QUO カードを2枚にしてはどうですか。

事務局：手数料がかかるかどうかも含めて、もう一度お調べします。

会長：賞品といっても、いる、いないがありますよね。全員がほしいものを選べるわけではないですね。

委員：金券の方が一律喜ばれるのではないのでしょうか。名前入りのグッズ等をよくもらうのですが、使うのは1割くらいですね。物よりは金券のようなものの方がいいと思います。

事務局：次回の運営委員会では、金券の方向で提案させていただきます。

会長：それまでに、何か案があれば考えておいていただければと思います。

委員：こういったイベントをして、苦しくなったら掛金をあげればいいのか。

会長：私は委員になって長いのですが、これまでもそういった流れできていますね。

委員：それでいいと思います。私の事業で言うと、原材料が上がっているので売値を上げていっていますので。

会長：実際に上げるとなると、色々な意見がありまして、なかなかずっと決まりませんよね。一回下げると今度は上げるのが難しくなりますし。今回の収支で見た感じでは、今の掛金で据え置いて様子を見る方がいい気がします。

委員：大丈夫そうな感じですよ。

委員：あとは、新規で加入者がどれくらい増えていくかということですね。

事務局：運営委員の方にも加入促進にご協力いただいて、ありがとうございます。

委員：40周年の時は1,000円のQUOカードで、35周年では、3,000円の図書券を配布し、35周年で奮発した理由は何かあるのですか。

事務局：過去は繰越金がどんどん増えていっていたので、平成24年度に掛金を800円から700円に下げています。掛金を下げた時点では、繰越金が増えも減りもしない収支で運営できると予測していました。しかし、平成24年度から事務事業に対して市から繰入れが廃止になり、それ以降は繰越金が減って

いくという予測になり、40周年事業では、1,000円に下げたということです。

委員：45周年で記念事業を実施するという事になって、次の50周年の時のインパクトを考えると、5,000円くらいのも物が来るのかなと思いました。

事務局：その時の収支を見て、判断することになると思いますが、たくさんの事業所にご加入いただければ、そういったこともあるかと思います。

会長：私は掛金を下げる時の運営委員会にも参加していましたが、掛金を下げることやお金が余っているということに色々なご意見があり、議論になりました。

委員：余るのも減っていくのもよくないし、今はまだ掛金700円で様子を見た方がいいですね。

会長：それでは、次回の運営委員会で記念事業の詳細を決めるということでよろしいですか。他にご意見、ご質問等ございませんか。

それでは、本日の案件につきましては、すべて終了いたしましたので、以上をもちまして、本日の運営委員会を閉会させていただきます。